

横浜市民ギャラリー「学校アートサポート事業 2003」報告

1. 神奈川朝鮮小学校

テーマ「こんな島に行きたいな」(18個の島のジオラマ)

活動概要

神奈川朝鮮小学校から参加してくれたのは6年生18人。発泡スチロールを土台に使い、木材、針金、粘土、発泡スチロール、ビーズ、布、石などの様々な材料でそれぞれ自分の島を作り、最後にみんなの島を一つにつなげます。

- 参加者 6年生 18人
- 材料など 発泡スチロール板やリング、針金、ビーズ・ガラス・石・砂、木材、液体粘土、紙・布など



それぞれの世界がだんだん出来上がってきました。次はグループごとに島どうしをつなげていきます。

(6月27日)

1日目 6月6日(金)

- 最初にどんな島を作るか、イメージを膨らませます。映画『天空の城ラピュタ』(宮崎駿監督)を少し見てから、どんな島にするか一人一人がアイディアスケッチをしました。

2日目 6月13日(金)

- 4人のグループを2つ、5人のグループを2つ作りました。一人一人作りたい島のテーマは自由ですが、このグループの島同志を最後につなげます。
- この前書いたアイディアスケッチをもとに島の土台を作り始めました。発泡スチロールや液体粘土を使います。それぞれ作りたい世界がはっきりしているのでどんどん形が出来てきます。テーマもさまざまです。

3日目 6月20日(金)

- 今日は自分たちの島を浮かべる「海」を作ります。厚手の模造紙をクシャクシャにして、波に見立て、その上から青のスプレーを吹きかけると土台となる「海」が完成。
- この前作った島の土台の上に自分の世界を作っていきます。家に持ち帰って部品を作ってくる人もいました。発想もさまざまです。



今日は島を浮かべる海を作ります。



各グループで模造紙1枚の海。



作業は外で行いました。



紙をクシャクシャにして青のスプレーをかけます。



順番にスプレーを使います。



教室に戻って島づくり。



作業中はみんないっしょけんめい。



着々と独自の世界へ。



グループの人と一緒に机で作ります。



自分で持ってきた材料も使います。



気をつけて！繊細な部品がたくさんあります。



ずいぶん形ができてきました。

4日目 6月27日(金)

- グループ別に島を完成させます。細部まで良く作りこまれてきました。何時間もかけた力作ぞろいです。
- 班ごとに作った海の上に、島を並べて島同志をつなげます。どのようにつなげるかは班の話し合いで決めます。つり橋、ビーズの橋、大きなブランコのような橋、トンネルの橋…橋と言っても、子どもたちの想像力にかかるいろいろな形があるようです。



同じ敷地内の高校の会議室を使って広々と。



先生が見本で見せてくれたイメージ図。



各班でどうやって島をつなげるか相談。



班のアイディアスケッチを囲んで盛り上がります。



女の子達に人気があるのはビーズ。
細かい作業もお手のもの。



この班はビーズの橋を作っています。



早速作った橋を置いてみました。



液体粘土に絵の具に混ぜると変わった質感に。



見事、島同士がつながりました。

5日目 7月3日(金)

- 今日はいよいよ最終日。子ども達の作業もいつもに増してパワーアップ。最終日になってもまだまだ新しい形が出てきます。グループの島ができあがったら、先生からもらったクラッカーをパンと鳴らして、拍手喝采。5グループのうち3グループがクラッカーを鳴らしました。でもクラッカーを鳴らした班の人も、実はまだもう少し作りたそう。
- 先生の合図で今日の作業は終了。その後はできあがったチームの作品を鑑賞する時間です。順番に作品を囲んで、先生が「この作品について感想がある人は？」と声をかけると、たくさんの方が手を挙げて意見。友だちの作品をじっくり鑑賞しました。



今日が最終日。



スチロールカッターで発泡スチロールを切ります。



窓辺の絵の具コーナーで色塗り。



色を塗ってよいよ完成間近。



真剣なまなざし。



液体粘土を手を使って流しつけます。



島をつなぐトンネル大橋。自信作かな？



先生のかげ声で作業終了。



最後はみんなで鑑賞会。



順番に各グループの作品を囲んで。



どこが良いと思ったか、次々に意見が出ます。



もうすぐ七夕。見事な水墨画の笹にかけた短冊。

2. 横浜市立伊勢山小学校 テーマ「よみがえれ、偉大なる森よ！！」(野焼き)

活動概要

横浜市立伊勢山小学校から参加するのは6年生47人と5年生たち。6年生たちは大きな円柱を形作り、野焼きで焼成し、それを組み合わせて森を作ります。総合学習の時間で勉強した「いのち」について、伊勢山の子どもたちが考える世界を表現します。6年生を見ていた5年生たちも「面白そう！」と参加することに。5年生は森の木々を飾る木の実をつくります。子どもたちが自分たちで燃料の調達を行うなど、様々な活動が展開しています。

- 参加者 6年生 47人 5年生 55人
- 材料など 野焼き陶土、ブロック、ベニヤ板などの燃料



底の直径約40cmの大きな円柱を作っています。ゆがまないようにするのが一苦労。(6月12日)

1日目 6月～ 野焼きプロジェクト始動！

6年生の年間事業計画「プロジェクトVI (シックス)」。この1プロジェクトとして、6年生の実行委員メンバーを中心に、初めての「野焼きプロジェクト」に挑戦します。

- 粘土に砂を混ぜてよく練りました。全部で150kgの粘土を練るのは、思っていたより大変でした。粘土は、ビニール袋に入れてしばらく寝かせます。
- 建築現場からもらった木材をみんなで運びました。野焼きのための燃料集めです。大きくて、重くて、たくさんの木材を何往復もして運ぶのは体力勝負でした。でも、みんな楽しそうでした。



「プロジェクトVI」野焼きプロジェクト実行委員と先生



石を混ぜて、割れにくい粘土に。力が必要です。



交渉の結果、建築現場で資材をもらいました。



力を合わせて運びます。



文様の下絵。テーマは「地球のいのち」。
奥は試作品。

2日目 6月12日(木)

- 寝かせておいた粘土を使って、いよいよ成形です。底の直径は約40cm、高さは約20cmの大きな円柱です。ゆがまないようにするのがとても難しかったです。でも、みんな上手に形を整えていました。



2〜4人で1グループ、全部で15グループ結
成。



薄く、均等に伸ばします。



底面と側面を分担して作ります。



教室の床いっぱいに広げて作業。



各グループで1つの円柱を作ります。



側面は長方形の板を貼り合わせます。



ヒビが入らないようにしっかり合わせます。



棒も使って平らにならします。



教室だけでは場所が足りません。



形作りに熱中しました。



形が出来たら模様をつけます。



下絵を見ながら。



さまざまな生き物の絵。



焼きあがったらひっくり返すので絵は逆さま。

3日目 6月13日(金)

- 円柱の土台ができたところで、縄を使って縄文の文様を入れたり、細い粘土のひもをつけたり、竹串で筋を刻んだりして、それぞれのグループの図柄をつくっていきました。どのグループのデザインも「地球のいのち」がテーマです。
- 各グループで仕上げた円柱状のパーツは、いくつかが集まると『偉大なるいのちの森』を構成する木となります。今はまだ積み上げることはできません。しっかり乾燥するまで、しばらくの間、おやすみです。



下絵の図案をもとに模様つけ。



鉛筆で描く下絵とはまた少し違います。



結構緊張します。



梅雨どきで雨が多いけど、うまく乾燥しますように。



とりあえず完成！！絵柄もさまざま。

4日目 6月16日（月）

- 運動会や体験学習などでいつも一緒に活動する5年生。野焼きプロジェクトも力を合わせてやることになりました。『偉大なるいのちの森』に落ちている、どんぐりや葉っぱをつくってくれました。



今日は5年生の出番！



色々な形の葉っぱ。よく観察しています。



丸いのとんがったの。これも一緒に焼きます。

5日目 7月11日(金) (1)準備編

- 昨日まで降り続いていた雨がうそのように、朝から晴れ渡りました。本当は、地面が乾いていないので、野焼きには適さないコンディションでしたが、夏休みまでもう間がなく、天気予報ではまた明日から雨が降るとのこと……。迷いながらも、野焼き決行となりました。

以後の文章は担当の先生からいただいたレポートをそのまま転載させていただきました。
長い一日の様子をページを分けてご報告します。

● 燃料を運ぶ

木材は、学校周辺の建築現場の方からお願いしていただいたり、保護者の方々や先生方が持ってきてくれたりしたものです。わらは、6年生が去年稲作りでお世話になった農家の方が分けてくださいました。



燃料となる木材やわらを運びます。



みんなで集めた貴重な燃料です。



大量の木材やわらを運ぶだけでも汗が。



燃料を地面に置いて、おき床をつくり
ます。

● おき床をつくる

作品の大きさがちがうので、5年生と6年生は別々の場所におきます。6年生の方は、長さが15メートルもある大きなおき床になりました。乾燥しながらあたためるために、周りに作品を並べ



5年生作のはっぱやどんぐり。



6年生作の円柱。慎重に運びます。



おき床の周りに作品を並べます。



消火器やバケツの水を用意します。

これで、準備はオーケー！



慎重に最終チェックをします。

5日目 7月11日(金) (2)点火編

● おき床に火をいれる

野焼きプロジェクト実行委員が集合の合図をしました。実行委員からのあいさつや校長先生からのお話の後、いよいよ火がはいります。



全員完全防備で集合。



実行委員からのあいさつ。



いよいよ点火。先生に火を付けてもらいます。



最初はなかなか火が付きません



みんなで協力。



煙が目にしみます。

● 作品を回して、あたためる



5年生の、おき床が勢いよく燃え始めました。



やけどに注意しながら作品の向きを変えます。



周りには、たくさんのどんぐりや木の葉。



それまで、おき床を燃やし続けます。



6年生のおき床にも、火が付きました。



熱くて作品を回すのに苦労しました。



作品の温度はどんどん上がります。

5日目 7月11日(金) (3)投火編

● おき床に作品を並べる

おき床の火が静かになり、白い煙だけがくすぶるようになりました。いよいよ作品をおき火の上に並べます。



熱いので気をつけて作品を並べます。



5年生は火ばさみを使って一つ一つ。



6年生の作品は先生が間を開けて設置。



すべての作品がおき床に置かれました。



おき火の温度になじむかどうか、緊張の一瞬。



みんな、自分の作品を見守ります。

5日目 7月11日(金) (4)本焼き編

● 木材を積み上げ、本焼きをする

作品の周りに、細長い木材を積み上げます。くすぶっているおき火から火がついて、再び炎が上がります。木材を積み上げているので、おき床を作ったときよりも、もっと大きく激しい炎が暴れ出しました。その時・・・

「パン！ ボンッ！ ポーン！」

何かはじける音です。作品の底が割れています。心をこめてかたどった側面が崩れ落ちていきます。5年生のどんぐりが砕けて飛び散りました。



火の勢いが強くなりました。



大切な作品に穴が・・・。



時々、ぶきみな破裂音が響きます。



突然のできごとに呆然と立ちつくすばかり。



暑さとけむりで、みんなぐったり。



日差しを避けてみんなでこかげへ。



火が消えました。



無事に残った作品も。



焼けたかな？まだ熱いです。



こなごなに碎けてしまったものも・・・。

5年生のどんぐりや木の葉は、かわいらしい形のまま灰の中に姿を現しました。多くの作品が、無事だったようです。

6年生の方は、全部で16個のうち、ほぼ完全な形で焼けたものは4個しかありませんでした。半分にわれたもの、底がぼっかり抜けたもの、中には、こなごなのかけらになり全く形をとどめていないものもありました。

5日目 7月11日（金） (5)かたづけ編

● かたづけて野焼き終了

5年生は、火ばさみで、灰の中から次々と作品を取り出します。淡いピンク色や、灰色がかった青、茶色、こげ茶、ベージュ、黒・・・様々な色が混ざり合い、野焼きならではの風合いをかもしだしています。お母さんたちが差し入れしてくれた麦茶を飲むと、今までの緊張が解けていきました。日（火？）に焼けて、朝より黒くなったみんなに、やっと笑顔がもどりました。6年生の作品やたくさんの灰は、完全に冷めるまで置いておき、野焼き実行委員や有志が放課後集まって、先生たちと一緒にかたづけました。



5年生は無事に作品が完成。ピースサイン。



気を取り直して残った木材のかたづけ。



重い気持ちを振り払って。



野焼き実行委員の終わりの言葉。



差し入れの麦茶を飲んで。



みんなに笑顔が戻りました。



やっと一息。おつかれさま。

5日目 7月15日(火) (6)再生編

● 焼け跡から森をよみがえらせる

野焼きでは、5年生がつくったどんぐりや木の葉は残ったけれど、森の大木を形つくるはずだった6年生のオブジェがほとんど碎けてしまいました。破損の少ないものは、はがれ落ちた大きなかけらを接着剤でつけて補修しましたが、多くは、こなごなの小さなかけらになってしまったため、復元は不可能です。思い描いていた森は、もう、つくることができなくなりました。5月からずっと、実行委員を中心として、全力でプロジェクトの活動に取り組んできた6年生のショックはそう簡単に消えそうにありません。学校の周りの何十件というお宅を訪ね、野焼きをするお知らせをお願いをしたときに、反対するどころか逆に「何かお手伝いできることはありますか?」と声をかけ、励ましてくれた町の方々に対して、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

ところが・・・

沈んだみんなの気持ちに元気の火をともし救世主が現れました。校長先生、副校長先生、技術員さん、学校の設備をなおしてくれる方、他の学年の先生方が協力して、大きなパネルを作ってくれたのです。畳1じょうの大きさの、分厚いベニヤ板に角材で枠をつけた額縁のようなものを3枚。それも、たった半日の間に。急に活気づいた6年生たちは、夢中になって創作しました。



かけらを丁寧にはめていきます。



プロジェクトのきっかけとなった鯨の写真を元に。



壊れた円柱や、どんぐりを使ってアレンジ。



ちょうど咲いていたあじさいなどを使って。



現代風のいけばなに変身。



それぞれに個性的です。



壊れたかけらがよみがえりました。



かわいい小鳥の巣もできました。

そこには、思い描いていた森ではなく、思いもよらなかった森がよみがえっていました。苦労を分かち合い、ともにピンチを乗り越えた友だちと一緒に記念撮影。もうすぐ完成する作品をバックに、うれしそうです。伊勢山の町の方々、建築現場の方々、農家の方々、材木屋さん、横浜市歴史博物館・学芸員の方々、保護者のみなさん、1年生～4年生のみなさん、技術員さん、先生方。たくさんの人に支えられ、励まされたから、くじけず最後まで活動することができました。ありがとうございました。



「プロジェクトVI」野焼きプロジェクト実行委員のこどもたち

3. 横浜市立藤が丘小学校

テーマ「こんなところで、こんなことして遊んでみたいな」(宿泊体験学習と合わせた版表現)

活動概要

横浜市立藤が丘小学校から参加するのは4年生100人。4年生にとって、今年は1/2成人式を迎える節目の年です。総合学習として取り組む「宿泊体験学習」(6月25,26日実施)の図画工作科の発展学習として、自然の中で体験したことや育んだイメージを様々な版表現で共同制作します。みんなの作品を合わせて4m×4mの大作になる予定。何を描き作るかは相談して決めます。

●参加者 4年生 100人

●材料など

ラシャ紙、水性版画インキ、ポスターカラー、ガムテープ、ローラー、バレンなど



自分の姿を映した紙版画を、4m×4mの大画面の上に仮置きして、どこにいたら楽しそうか、みんなで配置を考えます。

(7月8日)

1日目 7月1日(火)

- 宿泊体験学習から帰ってきてから、各クラス3人ずつによる共同壁画実行委員会を結成しました。完成までほぼ毎日集まりがありました。
- 各クラスで一人ひとりが「感動をもう一度!こんなことしたかったな(実際はできないけれど...)」をテーマにアイデアスケッチ。それをもとに、実行委員のこどもたちがお昼休みなどを利用して原画を描きました。大きな画面には空・噴水・湖・山・原っぱ・木などが描かれました。
- 同時進行で、紙版画に使う材料(古ハガキ、布、毛糸、ザラつきのあるものなど)集めをしました。
- 大きな画面はラシャ紙15枚を貼り合せてできたもの。各クラスで5枚ずつつなげて3列並べると大きな画面ができました。



まず何をどこに描くか大まかに決めます。



実行委員のこどもたちが原画を描きました。



大きな画面なので上に乗って描きます。



風景の大体の配置ができました。

2日目 7月2日(水)～4日(金)

- 約4m×4mの大画面に、実行委員の子どもたちが中心になり、様々な版手法を用いて背景を制作しました。



下絵にしたがって色をつけていきます。



引っかくようにして草原の動きを出します。



中央にダムの水門。感じができました。



大きな画面なのでみんなで力をあわせて。



スポンジや筆、いろいろな道具を使って。



ローラーを使って複雑な色あいの山を描きます。



それぞれの持ち場で集中して作業します。



他の子が描いたところはどうなったかな。



みんなが描いた景色がつながってきました。



水門から放水している背景が完成。

3日目 7月3日(木)～4日(金)

- ひとりひとりが、自分の「こんなことしてみたい」様子を版で表し、試し刷りをしました(大きさは10cm×12cm以上、B4サイズ以下)。



今日することのお話を先生から聞きます。



紙版をつくりローラーでインクをつけます。



パレンで全体的によくこすり付けます。



教室中にインクのにおい。



試し刷りができました。

4日目 7月8日(火) (1)

- 大画面の絵の中のどんなところで遊んでみたいか考えます。
- 場所が決まったらこの前試し刷りしたものを実際に画面の上に置いてみて全体の構図を決めます。
- 版で別の紙に模様をつけます。
- 本刷りをする前に、自分がそこでどんなことをしてみたいと思って絵にしたかを文章にしてみました。その気持ちを持ちながら、本刷り開始です。



先生やみんなと配置を考えます。



今日することを先生が黒板に書いてくれました。



もう一度配置を見直します。



先生も相談にのってくれました。



本刷りは1回だけ。念入りにチェックします。



どんなことをしてみたいのかを文章に書きます。



お友達どうしでもりあがります。



木登りをしたり、泳いだり。



だれがどこで何をしているのかが分かります。



場所が決まりました。いよいよ本刷りです。

4日目 7月8日(火) (2)

- いよいよ本刷りをして画面に版を写します。
- まずは版画のインクをローラーでよく練ります。
- 紙版画の上に練ったインクを全体的にしっかりつけます。
- インクがよくついたら、自分が決めた場所に配置してバレンを使って転写します。
- これとは別の日に、各自が書いたコメントの紙を葉っぱの形に切り取って、木の形をしたボックスを作りました。そこには宿泊体験学習の発展学習として図工以外にもどの科目でどういう学習をしたか、そして100人の子どもたちがこの情景の中でどんなことをしたかったかが書いてあります。



本刷りの前にインクを準備します。



ひざや手にインクをつけて一生懸命です。



しっかりインクをつけます。



インクをつけ終わった跡。



新聞を上置いて本刷りをします。



転写できました。



刷り直し。インクがつかえません。



ゆっくり版をはがします。



みんなで全体を見てみます。



仲良く並んで楽しそうです。



元気いっぱいです。



最後にお掃除。掃除も率先してやります。

4. 横浜市立盲学校

テーマ「さくらの木（あたらしいのち）」（物語を基にした立体作品）

活動概要

横浜市立盲学校から参加するのは3、4、5年生7人。

「おさびし山のさくらの木」という物語を読み、最後に出てきた木の芽が大きく成長したら、という仮定で「さくらの木」をみんなで作ります。視覚にハンディを持つ児童たちが触れることを楽しみ、素材の質感を感じながら作れる教材を使用します。

- 参加者 3、4、5年生7人
- 材料など ハイプレハンディーフォーム、針金、スポンジペーパー、新聞紙、角材、布、絵の具



先生と位置を確認しながらウレタンフォームを骨組みに吹きつけます。(6月30日)

1日目 6月16日(月)

- 活動目標：共同でひとつの作品を作る喜びを知ること。
- 今日の活動は「骨組みづくり」。木の幹を作るときには構造上根本から先端へ行くにしたがって細くなることを意識しながら形作りました。新聞紙やシートで作った軸に針金を巻きつけ、ダンボールを土台に「木」の幹や枝を作っていきます。
- 木の幹に枝を取り付けていく作業では全体のバランスを考えることを意識して行いました。枝分かれの具合を自分で考えたり針金を巻いて新聞紙を固定する作業を楽しみながら行うことができました。
- 介助の先生たちもいましたが、やり方がわかるとあまり介助しなくてもどんどん自分たちで取り組んでいました。大きな作品を作るということで わくわくした気分になり意欲的に取り組めたのだと思います（担当の先生コメント）。



針金を新聞紙に巻きつけてしっかりと。



木の軸を作ります。



新聞紙を丸めて。やさしそうな指先です。



木のとっぺんに手が届かないくらい大きい！



みんなと一緒に。



土台の木ができてきました。

2日目 6月23日(月)

- 今日の活動は先週に引き続き「骨組みづくり」。枝が四方に広がって木らしくなってきました。
- 「花づくり」もしました。水に入れると膨らむシート状のスポンジが材料。まずスポンジを花びらの形に切り取ってピンクの色水に浸すと、勢いよく「ボンッ」と膨らみました。感触が楽しくて子どもたちはすっかり夢中中。



大きな木になりました。



枝分かれの具合もよい感じ。



スポンジペーパーを切ります。



紙みたいに薄いのですが・・・。



色水に浸すとたちまち膨らみます。



桜の花びらが次から次へと出来上がりました。

3日目 6月30日(月)

- 今日の活動は「ウレタンフォームがけ」。前回までに作った木の骨組みに、ウレタンフォームのスプレーを吹きつけます。出てきたウレタンの泡が固まって、でこぼこした表面をつくり、ちょうどさくらの木肌のようにになりました。



先生と位置を確認してウレタンを吹き付けます。



枝先まで丁寧に。新聞紙が段々隠れてきました。



届かない所は木を寝かせて。



どんな具合になったか触ってみました。



本当の木らしくなってきました。



ウレタンフォームが固まって凸凹としています。

4日目 7月7日(月)

- 今日の活動は「着色」。先週吹き付けたウレタンフォームの状態を触って確かめてからアクリル絵の具で幹を塗りました。対象となる幹や枝を手で確かめながら塗りますが、おかげでシャツと手は絵の具だらけ。でもそれがまたおもしろくてどんどん塗ることができました。その速さといったら先生が缶から絵の具を出すのが間に合わないくらいでした。
- 乾いて堅くなったスポンジの花びらに細い針金を通していきました。そこで図工の時間は終了。後は中休みや昼休みなどに集まって花びらを枝に巻き付けて完成させました。花がない枝を触って確かめて、まんべんなく花があるようにつけてあります。



木を寝かせて色を塗ります。



ここはまだ塗っていないみたい。



まんべんなく色を塗ります。



先生と一緒に。



木の色塗りが完了。



カリカリに乾いたスポンジに針金を通します。



針金を手に刺さないように気をつけて。



大きな木だから、花びらもたくさん。